

秋は、「祭り」の季節である。「おいも掘り」や「梨もぎ」、或いは「運動会」や「文化祭」など、幼稚園の秋も、様々な「祭り」で彩られる。

「果たして、これだけの行事が必要なのだろうか」「これらは、日常性の破壊でこそあれ、積極的な価値を持たないのではないか。」今年もまた論議がくり返され、批判やら改革案やらが出されながら、結局は、似たようなことのくり返しに終るのが、大方の傾向であらうか。

これらをめぐって、唯一つの、正しい答えなどというものは、あり得ないのかもしれない。単に、秋の行事に限らず、保育とは、そして、人間の生活とは、そもそもが、絶対の正解からは縁遠いものではないだろうか。

可能性は、多方向に開けている。にもかかわらず、ある状況の中で、自らある種の選択と決定がなされ、その方向へと生活が動いていく。別の動きも起こし得

たかもしれないのだが、「そうしなかった」のは、とにかく、そのとき、この方向だけが、「何故か」、唯一の可能性として残されていたからなのだ。そう、まさしく「何故か」なのである。

ここには、雑然とした、但し、生々しく活気に満ちた生活性がある。蓋然性の高い事象だけから組み立てられた観念の世界で、公認の完定した知的形式に依拠しつつ、論理の駒を動かして正答を導き出すのとは、自ら異なる面白さだろう。

然し、選択し、行為したことへの反省的思考は、大人の手に委ねられている。行なわれたことを一つの材料とし、そこで行為した自身をも対象として、様々な思いめぐらし、切り捨てられた可能性の意味をも問い直すことは、意義深い仕事である。「後に考えること」が、究極的には、「前に考えること」を凌駕するのが実践の妙味と言えよう。(本田和子)

幼児の教育 第七十七巻第十号

十月号 ◎ 定価二二〇円

昭和五十三年 九月二十五日 印刷
昭和五十三年 十月 一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行人

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレイベル館にお願いいたします